

新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）

事業名(主)	コロナ禍における子ども食堂緊急支援事業
事業名(副) <small>※任意</small>	団体等連携の更なる推進で地域の孤立解決

入力数 主 19 字 副 19 字

実行団体名	さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会（2020年11-12月に一般社団法人化）
資金分配団体名	特定非営利活動法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
1.貧困をなくそう
2.飢餓をゼロに
3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2020年11月 ～ 2021年10月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (佐賀県)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	(対象者) 県内の子ども食堂をはじめとした子どもの居場所 (最終受益者) ひとり親家庭等のお困りを抱える子どもと保護者	事業対象者人数	約1,000世帯
------	---------------------	--------	---	---------------------------------------	--	---------	----------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的	佐賀県においてこどもの居場所（たべる・まなぶ・あそぶ）を運営している団体が増えていく中で、様々な課題に直面している現状があり、運営者同士の情報交換や支援者とのネットワーク構築が必要になっています。 このような中、子どもや子育て家庭を地域で応援していこうという動きは年々大きくなっており、全国でも様々な取り組みが行われていますが、困窮や乳幼児・子どもへの虐待など、隠れた課題の早期発見・早期解決に向けた取り組みには、まだまだ多くの方々のつながりが必要です。 そのため、私たちは、『子どもを含めた地域の方々の居場所づくりと、居場所を中心とした地域の新たなつながりづくりに向けた取り組み』をとおして、子どもたちの成長を応援する輪を広げ、子どもたちが希望を持って成長できる地域社会の実現を目指すことを目標に、『さが・こどもの居場所ネットワーク』を設立しました。
(2)申請団体の概要・事業内容等	この法人は、多重な困難を抱える子どもたちと地域や各種支援団体等との繋がりを創出することで、子どもたちの孤立を防止し、困難を解消し、健康や生活習慣の向上を図り、すべての子どもたちが健やかに安心して成長していける社会を実現することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。 1 子ども支援団体等への情報提供、普及啓発、セミナー事業 2 子ども支援団体等への活動支援事業 3 子ども支援団体間のネットワークづくり事業 4 多重な困難を抱える子どもたちへの支援のための調査研究及び情報発信事業 5 その他各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

入力数 (1) 377 字 (2) 272 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題	<p>■問題・課題。その要因 佐賀県におけるひとり親世帯数は、平成22年の国勢調査によると、全国で10番目に高い比率となっており、その数は、約6,000世帯となっている。又全国的にも、子どもの貧困は、1980年代から上昇傾向にあり、現在は7人に1人が貧困状態にあるといわれている。その要因として、「親の収入」と「ひとり親世帯の増加」が主要因である。「収入」については、社会環境の変化や景気後退を原因とした、非正規雇用等低所得層の増加であり、「ひとり親世帯」については、複合的要因となっており、いずれの要因も、すぐの解決は難しい状況である。これら貧困による社会的損失は4.3兆円といわれ、また貧困を原因に教育格差が広がり、更なる低所得層の増加をまねき負のスパイラルにおちいる。</p> <p>■コロナ禍による深刻化・顕在化 子どもの貧困を支援している我々は、「場所の提供によるコミュニケーションの充実」「食事の提供による飢餓の防止」「学習の場、提供による教育格差の是正」などを行っているが、コロナ禍において、「集まる」ということ全てが難しい環境にある。今後の第二波第三波を警戒することで、提供していたもの全てがこれまで通りの提供が困難になり、地域の子どもたちの貧困問題は深刻化をますます可能性がある。</p> <p>■解決の必要性・緊迫性 平時のつながりづくりである居場所の提供支援と、非常時の緊急対応である困難家庭の生活支援という地域における重要な役割をになう我々は、この新しい世界（新しい生活様式）にあわせた子どもの支援を確立することは急務であると考えている。地域の子ども食堂や、フードバンクとも知恵をだしあいながら、休眠預金を活用することで、地域支援を継続したいと考えている。 (補足) ※募集テーマに即した現状支援状況 ①こども食堂が居場所の提供と食料配布（フードパントリー）双方を行うため両立支援 食料管理の専門家との連携による食中毒対策ノウハウ提供や行政との連携による広報協力を実施している。 ②休止していたこども食堂に対する再開支援・新規立ち上げ支援 地域の災害ネットワーク組織や加盟団体との連携により災害時の再開支援相談対応を実施している。 ③運営者が孤立しないためピアサポートの促進 行政や企業連携をはじめ、こども食堂30団体以上とのネットワークを構築し定期的な会議開催による相互支援を継続している。 ④食料・物資・資金の仲介 毎年1,000万円をこえる寄付を集め、地域の子ども食堂への助成実績を通じた支援をしている。</p>
--------------------------	---

入力数 1045 字

### III.事業内容

<p><b>(1)事業の概要</b></p> <p>「①子ども食堂が居場所の提供と食材配布双方を行うための両立支援」や「②休止していた子ども食堂に対する再開支援・新規立ち上げ支援」や「③運営者が孤立しないためのピアサポートの促進」を、従前より県と協働で実施してまいりました。今後も本テーマ支援は、継続しつつ（これら支援は、県の補助金事業となるため、本申請の対象には含めておりません）、コロナ禍で発生した緊急対応を、重点施策として、子ども食堂等への「④食材・物資・資金等の資源仲介支援」を実施します。具体的には、企業やキッチンカーと連携をした食材や物資配送の実施（人的リソース不足の団体支援と、一般企業等でのフードロスが増加し、新たに発生している食材のフードバンク利用を実現するための専門企業との提携）と、主幹団体である公益財団法人と連携した寄付集め（従前通り年間1,000万円目標）による、子ども食堂への助成金配布事業です。※子ども食堂からの要望があれば、地域のひとり親家庭等への定期的な弁当等の資源仲介支援も実施する予定です。</p>
--

入力数 438 字

<p><b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b></p> <p>平時では、毎年1,000万円の寄付をいただき、事業基盤を構築し、結果、地域における子ども食堂実施回数は、年間360回を継続できる状態であった。新型コロナウイルス発生により、緊急で対応すべき事象が発生し、結果、コロナ禍において子ども食堂の実施回数も落ちている現状です。本事業を通じて、新しい生活様式にあわせた事業として、子ども食堂の実施回数を維持することで、地域におけるひとり親家庭1000世帯への食事提供機会が継続的に確保されている状態を目指す（資金面についても、従前の寄付に加えて、新たなクラウドファンディングや、補助金・助成金等を活用し、更なる事業発展と、事業継続を図っていく予定です。）</p>
---

入力数 296 字

③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
子ども食堂等への食材・物資・資金等の資源仲介支援	支援団体数	団体数のカウント	30団体程度	2021年10月

(4)活動	時期
当会と連携している子ども食堂からの詳細ヒヤリング実施し課題を把握する（従前との実施回数の差や、地域のひとり親世帯での食事課題）	2020年11月～
子ども食堂へのフードバンク等からの食材・物資の配送方法、回数、内容の詳細を設計	2020年12月～2021年1月
子ども食堂への食材・物資配送支援の開始※要望があれば、地域のひとり親家庭への弁当配送等も実施	2021年1月～
主幹団体である公益財団法人と連携しながら、寄付集めの開始	2020年12月～
寄付集め完了後、子ども食堂への助成金配布事業を実施	2021年2月～
上記活動を実施しながら、地域でのニーズ課題を更にヒヤリングをし、次年度以降の事業構築を検討。	2021年8月～
新しい支援先回りや準備を実施しながら、今年度事業の振り返りを実施	2021年10月～

### IV.事業実施体制

<p><b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b></p> <p>全体事業統括：山田健一郎（さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会 委員長）          PM（外部）：一般社団法人佐賀地域活性化協議会（代表：杉本）（地域のニーズ把握、フードバンク・団体とのやりとり、全体運営支援）          事務・経理担当：新規雇用          事務局補助：特定非営利活動法人さが市民活動サポートセンター（事務局：江口）</p>
<p><b>(2)他団体との連携体制</b></p> <p>（さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会・主幹団体）</p> <p>特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス（引きこもり等の重度の状況に対するアウトリーチ支援）          特定非営利活動法人地球市民の会（外国人の子ども支援）          特定非営利活動法人Succa Senca（農家等食材支援）          特定非営利活動法人さが市民活動サポートセンター（事務局支援）          公益財団法人佐賀未来創造基金（資源循環での連携支援）</p> <p>（協力団体）          フードバンクさが（ノウハウ提供・ニーズ把握・企業連携・食材等の提供などの協力）</p> <p>（運営連携）          キッチンカー・調理担当：一般社団法人九州ケータリング協会（30社程度のケータリング・飲食会社が会員。キッチンカー手配、調理、食材配送を担当）</p>
<p><b>(3)想定されるリスクと管理体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策については、むすびえ様発行の「子ども食堂・フードパントリー開設簡易ハンドブック」を活用遵守徹底する。</li> <li>・食中毒対策については、団体の作成マニュアルや、他団体資料を活用し遵守する。</li> <li>・zoom等のオンラインでの相談支援や意見交換等も実施する。</li> </ul>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合 その詳細 幹事団体のひとつ佐賀未来創造基金による新型コロナ対策助成事業実施中 <a href="https://saga-">https://saga-</a>
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績			
<p>&lt;行政委託等&gt;</p> <p>■平成29～30年度①佐賀県子どもの居場所拡大に係る開設支援事業（居場所設置者への開設・運営支援・居場所に関する冊子の作成・発行・研修会の開催）②佐賀県子どもの居場所ネットワーク形成支援事業（意見交換会の開催・講演会の開催・交流サイトの構築運営）</p> <p>■令和31年度～令和2年度①子どもの居場所を支える地域の力」 マッチング強化業務（マッチング強化業務・こどもの居場所普及・啓発業務・こどもの居場所ポータルサイトの管理運営）</p> <p>&lt;幹事団体の自主事業&gt;</p> <p>◎寄付集め（2017年：1,500万円/2018年：約1,000万円/2019年：約1700万円/2020年：新型コロナでのこどもの居場所支援寄付集め現在約250万円）</p> <p>◎基金創設・助成事業（子どもの居場所応援基金/「こどもノ」子どもの居場所とモノ（食材等）のマッチング事業/奨学金事業）</p> <p>◎ネットワーク形成（子どもの居場所応援・ネットワーク形成等キックオフフォーラム）</p> <p>◎地域円卓会議（「子どもの居場所」地域円卓会議開催（課題共有・既存の居場所の運営・スキルアップ支援等）</p> <p>◎他団体連携：子どもの貧困対策あすのばキャラバンin佐賀（共催：公益財団法人あすのば）</p> <p>&lt;協力団体等実績&gt;</p> <p>■一般社団法人九州ケータリング協会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県内における平時・災時におけるキッチンカー手配多数（佐賀県との協定締結予定）</li> <li>・年間30回程度のイベント企画運営</li> </ul>			